

学び!

人と自然の応援情報誌

ハーモニー78号  
24枚 ©2-004A3

# ひとはく新聞



☎669-1546

兵庫県三田市弥生が丘6丁目  
兵庫県立人と自然の博物館  
(兵庫県立大学 自然・環境科学研究所)<http://hitohaku.jp>

TEL:079-559-2001 (ひとはくの代表番号です)

TEL:079-559-2002 (学校や団体のご利用の方はこちらにおかけください)

TEL:079-559-2003 (セミナーやイベントなどのお問い合わせ先です)

## はたち ひとはく二十歳

この10月に、いよいよ、ひとはくが二十歳(はたち)を迎えます。この開館20周年を記念して、ひとはくでは、さまざまなイベントを催すだけでなく、移動博物館車や新しい展示フロアを公開します。



## 発進! ゆめはく

移動博物館車がついに完成しました。このような車両の導入は当館の長年の願いでした。20周年という節目の年にとうとう夢が叶ったというわけです。移動博物館車の愛称は「ゆめはく」ですが、この愛称は当館の職員が考案したものではありません。愛称だけでなく、そのロゴデザインやラッピングデザインもすべて公募によるものです。5月29日～7月31日の間に47作品の応募がありました。応募作品は力作ぞろいでしたが、厳正な審査の結果、今回は児島満氏の作品を最優秀作品として選ばせていただきました。

「ゆめはく」はコンテナ付きのトラックですが、展示室やセミナー室などとして利用できるよう、コンテナには様々な加工が施されています。例えば、コンテナの片側の壁は上下に大きく開く構造となっています。今後は「ゆめはく」をキャラバン事業などに大いに活用し、地域での博物館活動をさらに活性化させていく方針です。

石田弘明(地域展開推進室)

## ひとはく多様性フロア -魅せる収蔵庫トライアル OPEN!

10月14日に、本館2階に新しい展示フロアがオープンします。ひとはくでは、「収蔵庫」と「演示」、「学びの場」が融合した魅せる収蔵庫のアイデアを長い間温めてきました。今年、開館20周年を迎えるのを契機に、そのアイデアを少しでも具体化しようとトライしたのが、この新フロアです。ひとはくが20年間に集めた生物や化石、鉱物、古写真などの標本・資料を壁面や陳列ケースにずらりと展示しています。また、触ったり、観察したりして、標本・資料を調べるおもしろさを体験できるコーナーや、ひとはくの秘宝が特別に展示される小部屋もあります。限られた空間での試みですが、標本・資料から自然界に隠された多様性の物語を読み解くおもしろさを、展示だけでなく、セミナーやイベントなどを通じて体験いただけるようにトライアルしていきますので、皆さまの来館をお待ちしております。

橋本佳明(生涯学習推進室)

## ひとはくコラム 本当はヒトを探る 霊長類学

昔からひとはくは霊長類学に縁がありました。初代館長(準備室長)の伊谷純一郎さんと第三代館長の河合雅雄さんは学問のスタイルは違っても、ともに霊長類学者でした。わたしも霊長類学者です。わたしは今、ヒトの遺伝的多様性や文化的多様性に興味があります。さまざまなヒトがひとつの社会を作るには、何が必要なのかという問いかけです。

時代と共に科学は変わります。MRIという技術を使って脳の活動が目に見えるようになりましたし、ゲノム解析では、多くの生物の遺伝情報がそっくりそのまま分析できるようになりました。霊長類学も例外ではありません。伊谷さんや河合さんの時代には、野外と実験室の成果を持ち寄って新しい霊長類学を創るには努力が必要でしたが、今の若い研究者にとって、野外と実験室を行ったり来たりするのは、当たり前の事になりました。

ひとはくは生涯学習施設です。生涯学習施設の現代的な課題はユニバーサル・ミュージアムだと思います。ユニバーサル・ミュージアムでは、ユニバーサルデザインの考え方を教育の場はどう生かすかと問いかけます。この「教育の場」を「社会」に代えれば、そのままユニバーサル社会という事になってしまう。言い換えれば、「さまざまな人(あるいはヒト)が作る博物館」というひとはくの課題が、わたしにとってはそのまま、霊長類学の課題になっているのです。

三谷雅純

(兵庫県立人と自然の博物館 主任研究員)